いろいろな植物のさわり心地を比べよう！

植物の葉っぱや茎をさわってみると、ツルツルやザラザラ、フワフワやトゲトゲ、ベトベトしたものがあります。これは、葉っぱや茎に生えている毛やとっきの有無や形、生え方のちがいによります。たとえばカナムグラでは、つるにとげがありますが、そのとげを使って、ほかの植物などにからみついてつるをのばすのに役立っています。いろいろな植物をさわり、さわり心地を比べて、それらがどのような役割をしているのかを考えてみましょう。

用意するもの

植物

＊いろいろなさわり心地の植物を採集する。

＋

クッキングシート

＊ベタベタした葉でもくっつきにくい。

＋

シリカゲル

＊かんそうさせるのに使う。

＋

スポンジシート

＊商品を包む、スポンジのこんぽう材を再利用してもよい。

シール容器

＋

ホットメルト接着剤

＋

木工用接着剤

＋

スチレンボード

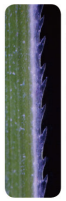
いろいろなさわり心地

ツルツル　ツバキ

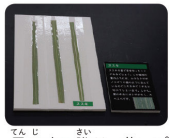
葉っぱの表面には、水をはじくワックスと透明な層があり、雨の多い場所でも水がしみこまず、気温が高いところでも水分が蒸発しにくい。このような木を照葉樹と呼び、気温が高く雨が多い地域に多い。

ギザギザ　ススキ

イネ科などの単子葉植物は、葉っぱの脈が平行でツルツルする。



葉っぱのふちにギザギザが（ガラスのとげ）あり、むやみにさわると手が切れる。



展示する際は、葉っぱのふちにテープをはって保護する。

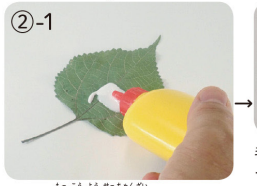
フワフワ　アカメガシワ

葉っぱの表面には星状毛（②観察と調査p.43）があり、フワフワしている。春の新芽は赤いが、やがて成長とともに消える。この赤い色素は、日光の中にふくまれる有害な光から、新芽を守ると考えられている。

さわり心地展示を作ろう

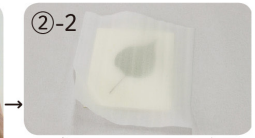
①

シール容器にシリカゲルを入れてかんそうさせる。



②-1

植物に木工用接着剤をぬる。

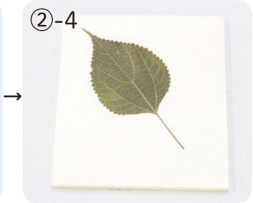


②-2

毛が折れて、さわり心地が変わってしまわないように、スポンジシートを上にしく。

②-3

重しをのせて、1日置く。



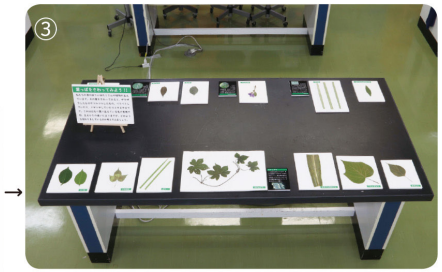
②-4

完成したさわり心地展示パネル。

①採集した植物を、植物標本（③標本と展示p.30-31）と同じように、新聞紙にはさんでかんそうさせます。または、紙やクッキングシートに包み、シール容器にシリカゲルを入れてふたをして、3日ほど置きます。クッキングシートは、おもにベタベタした植物をかんそうさせる際に便利です。

②植物に木工用接着剤をぬり、スチレンボードにはります。重しをのせて1日置いておくと、よりくっつきます。太い茎は、ホットメルト接着剤でとめます。

③ラベルなどを作って、配置する。



③

展示スペースの机をかべに付けないことで、机をぐるっと回りながら見られるようにさわり心地展示パネルを配置。

ザラザラ　ムクノキ

ふせた、かたい毛。

葉っぱの先のほうに向かって、ふせた毛がたくさん生える。毛はかたく、天然の紙ヤスリとして、そろばんなどの木製品をみがくのに使われた。

トゲトゲ　カナムグラ

つるのとげ。

つる植物の中にはカナムグラのように、ものにからみついてつるをのばすものがある。茎や葉っぱの柄にかぎ状のとげがあり、このとげを引っかけてのびる。

ベトベト　モチツツジ

若い葉っぱや枝などに、ベトベトする腺毛という毛がある。ベトベトする液を出すことで、花粉を運ばない虫を、花に寄せつけないようにする。

モチツツジカスミカメ

（写真提供 長島聖大）

腺毛のアップ。ここに虫がくっつくが、くっついた虫を専門に食べるモチツツジカスミカメがいる。

植物の葉は種類によってさわり心地が違います。虫眼鏡で拡大してなぜ違うのかを調べてみましょう。おうちの人や友達といっしょに、目かくしをしたまま手でさわってみて植物の名前をあててみても楽しいですよ。（小川）

◆自然を調べるプロのスゴ技にチャレンジ！　特別配信版（期間限定）／少年写真新聞社
『100円グッズと身近な道具でできる！ 博物館のプロのスゴ技で自然を調べよう ④展示と発表』
小川誠・奥山清市・矢野真志／共著（西日本自然誌系博物館ネットワーク）p.20-21より
※このシートは、非商業的な利用に限り使用を許諾します。　©小川誠・奥山清市・矢野真志